



小学生プログラミング県大会

豊田の中田さん最優秀

全国大会へ

全国選抜小学生プログラミング大会の県大会（中日新聞社など主催、南山大理工学部共催）の最終審査が22日、名古屋市昭和区の南山大であり、豊田市山之手小6年、中田遥人さん（11）が最優秀賞に輝いた。3月に東京で開かれる全国大会に出場する。

中田さんの作品は「豊田市博物館 岩石採集サポーターアプリ」。中田さんは4年生から博物館の岩石標本の採集ボランティアに参加。配布される地図で未採集の場所を確認し、各自で訪れるというやり方で採取を進める中で、自分が地図上のどこにいるか分かりづら

らと感じていた。衛星利用測位システム（GPS）情報を使い地図上に自分の位置を表示させることを思いつき、昨冬からアプリの開発に乗り出した。

371枚分の地図データをアプリ上で組み合わせるなどの苦労があり、4カ月以上を費やして完成。現在は実際にボランティアのメンバーたちに使われており「喜んでもらえてうれしかった」と振り返る。「発表順が1番で緊張した。全国大会でも良い成績を残し、博物館のことを全国の人に知ってほしい」と意気込んだ。この日の最終審査には29人の応募者から選ばれた計10人が出場。審査員を前に作品の特徴や制作の経緯を説明し、発想力や表現力、技術力を競った。（片岡典子）